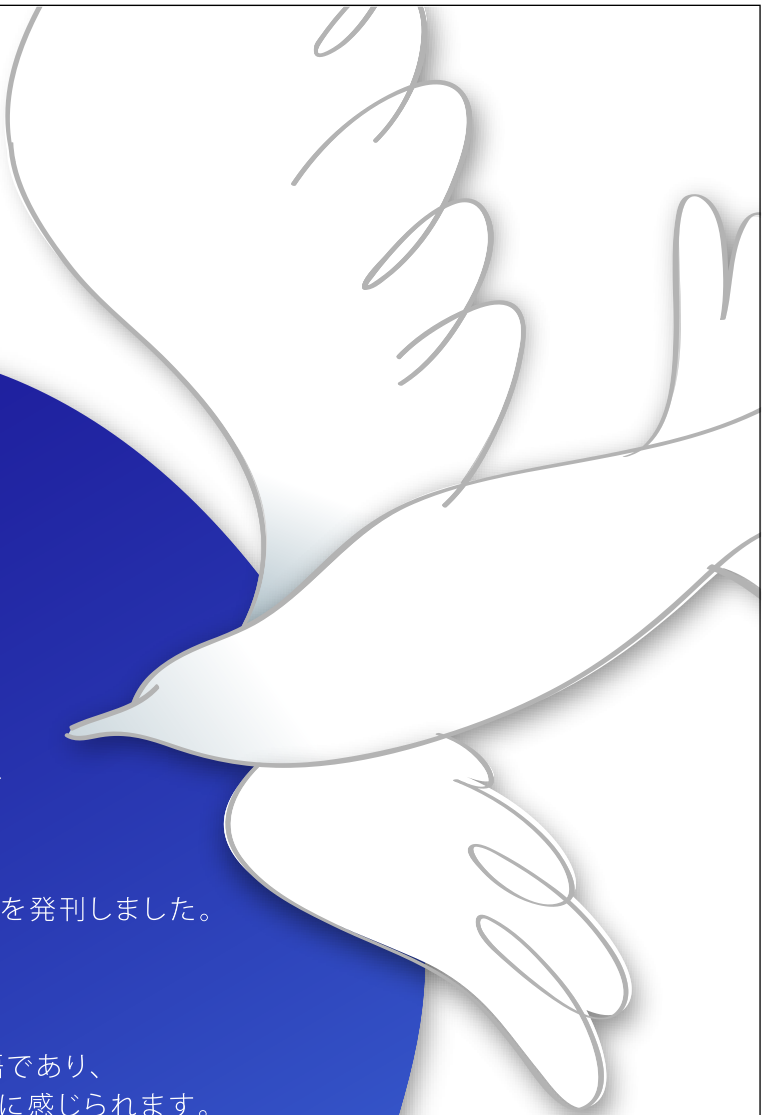

やさしいこころのまちづくり

多くの日本人の心をとらえた
名曲「千の風になって」——。
この曲は、新井満さんが
新潟市に住む大切な知人の
悲しい出来事を悼んで作った作品です。
ふるさと新潟への深い想いと友愛の心によって、
この生命と愛の感動的な物語が生まれ
全国に広がりました。

新井さんは平成 20 年 6 月、『良寛さんの愛語』を発刊しました。
「愛語」とは相手をやさしく思いやる言葉であり、
その言葉は、相手をやさしく思いやる心、
「愛心」から生まれてくるといいます。
「千の風になって」の言葉たちはその全てが愛語であり、
それは新井さんの愛心が紡いだものであるように感じられます。

古くから「お日和もらい」※の精神で知られる
新潟市民の「相手を思いやる心」。
この心の系譜の中で、新井さんの愛心としての
「千の風になって」を理解したいと思います。
この心を、新潟市民こそがしっかりと受けとめたい。
未来の子どもたちに伝えていきたい。
今を生きる私たちは、この歌によって
「やさしく生きる」ことへの気付きを深め、この作品を
やさしい心のまちづくりに活かしていきたいと思うのです。

新井さんは「千の風になって」が新潟市民の心をより豊かにし、
やさしい心のまちとして全国からも関心を持ってもらい、
そのことで交流が生まれてふるさとが
一層輝くことを強く希望しています。
新井満さんの全面的な協力や支援のもとに、
新潟市民と行政が協働して
プロジェクト「千の風のふるさと・新潟市」に取り組みます。

※お日和もらい
北前船の時代、船が出航できる日和になるよう新潟の町人衆らが
神社に参った風習。船出が遅れれば町は潤うところを、船乗りのために
好天を祈ったもので、相手の立場を思いやりながら互いの発展を願う
「互恵の精神」が表れています。